

以上という低い気温で気化します。そのため、中毒のもっとも重要なルートは吸入によるものです。シアン化水素酸中毒の症状は、次のようなものがあります。

初期には、眼、鼻、口腔、気道粘膜の炎症による痛みや灼熱感、喉のしびれ、流涎、吐き気、嘔吐、発汗、頻脈、顔面紅潮、下顎の硬直感、頭痛、めまい、不安感、呼吸困難、脱力感などがあります。呼吸や嘔吐物は、アーモンド臭がします。進行すると、肺水腫、瞳孔散大、対光反射消失、痙攣、昏睡、呼吸不全、不整脈、ショック、死となります。

量が多ければ、即死します。4時間以上経過すれば、回復の見込みが出てきます。体内に摂り込まれたシアンは、肝臓や腎臓に存在するチオ硫酸と反応して、毒性の低いチオシアナイドに変換されて、尿中に排泄されていきます。

歴史では、第2次世界大戦でナチスがガス室で、このシアン化水素を応用したものを使用したほか、1980年代にイラクが対イラン戦争で、またイラク北部のクルド人に対して使ったことが報告されています。

現在、シアン化水素は金属のメッキ、殺虫剤、化学ゴム工場などで日常的に使用されています。天然の植物でシアン配糖体をもつものは、ウメ、アンズ、サクランボ、ビワ、アーモンド、キャッサバ、五色豆などがあります。

AFFINITY

Hydrocyanicum acidumは、主に脳神経系、心臓循環器系、呼吸器系、心窩部に作用します。

CLINICAL APPLICATIONS

このレメディの適用疾患は、症状が突然急激に発症します。

■精神神経系

- ・恐怖症：死、猫、馬、道路を渡ることなどでさえ恐怖を感じる場合があります。また、空想上で物事を悪

い方向に考えて、それを怖がります。

- ・痙攣：咽頭部が痙攣性に締めつけられる感覚になると、窒息感があります。大きな痙攣発作では、胸が苦しくなったり、動悸がしたり、脈が弱くて不整になったりします。
- ・昏睡
- ・てんかん：てんかん発作前に、突然無意識に叫び声を上げてしまうことがあります。発作中に眼球が右寄りに上を向きます。
- ・尿毒症性痙攣
- ・ヒステリー：自分を傷つける衝動があり、その衝動を抑えるのに努力が必要なことがあります。

■心呼吸器系

- ・冠状動脈炎：通常の治療と平行して補助的に使用します。心臓周辺部分に締めつけられるような感覚があります。動悸や不整脈を感じます。
- ・呼吸困難：心血管系の器質的疾患をもっている例で、低酸素症になっている場合。各種疾患時のチアノーゼ。呼吸器系の異常による呼吸困難症。痙攣性の咳や窒息感の強い咳などによる低酸素状態。喘息や百日咳。
- ・睡眠時無呼吸症候群
- ・失神：冷たい石のように、急に体が冷え切ったように感じます。

■その他

- ・胃の痛み：食欲不振です。胃の痛みが空腹時に悪化します。心窩部に衰弱感があります。

MODALITY

- ▶ コーヒー（めまい）
- ▶ 満月、感染、嵐など

RELATIONS

- ・Antidoted by：Camphora, Coffea, Ipecacuanha, Nux vomica, Opium, Veratrum album

Hyoscyamus niger ヒヨス [問題行動]

Hyoscyamus niger L.

BACKGROUND

Hyoscyamus nigerは、ナス科ヒヨス属の植物で、ヨーロッパからシベリア、中国に自生する1、2年草

です。

植物全体に白い毛が生えていて、ネバネバしています。葉は淡緑色で粗い鋸歯状になっていて、触るとか



ぶれます。初夏になると、クリーム色で内部が褐色の、筋模様のあるあまり綺麗ではない花を咲かせます。

Hyoscyamusの名の由来は、ラテン語でhys（豚）、kyamos（豆）-豚の豆という意味です。これは、この植物を多用したギリシア神話の魔女キルケが、憧れのオデュッセウスの部下を魔法で豚に変えたためとか、人に強い毒性のある植物なのに、豚にはあまり効かないからなど、いろいろな説があります。

一般的には、Henbane, Black henbane, Stinking nightshade, Stinging Roger, Hog's bean, Cassilata, Hyosなど、いろいろな名前があります。もっとも一般的な名のHenbaneは、16世紀の魔女狩りの際に付けられたもので、hen（雌鶏）、bane（毒殺する）、つまり魔女殺しという意味です。シェークスピアの作品でハムレットの父を殺すのにも、この植物が使われています。

Hyoscyamus nigerは、1世紀の頃から鎮痛薬や催眠薬として使われていました。また古代ギリシアでは、性欲を刺激したり、現実を忘れさせたり、幻覚を楽しむために使われたと言われています。前述の魔女キルケも、この植物で憧れのオデュッセウスを惑わし続けたといいます。

Hyoscyamusには、各種トロパナルカロイドが含まれており、代表的なものは、ヒヨスチアミン、ヒヨスチン、アトロピン、スコボラミンがあります。これらの成分は、同じ分類のAtropa belladonnaやDatura stramoniumにも含まれていますが、それぞれの種によって、その成分比が異なります。Hyoscyamusには、スコボラミンの含有量がいちばん多くなっています。このスコボラミンには、脳神経系に作用して幻覚作用を起こすほか、筋肉緩和作用、抗神経痛性作用、喘息改善作用などもあります。ヒヨスチアミンには抗炎症作用があります。

このほか、トロピン、スコピン、アポアトロピン、クスクヒグリンなどのアルカロイドが含まれています。アルカロイドの総量は、根にもっとも多く含まれており、ついで種子、葉の順に含まれています。

MATERIAL

5～7月の間に収穫された植物全体

FIRST PROVING

ハーネマン（1805）

MIND

このレメディが効きやすいタイプは、知的な仕事をしていて、過労により神経症になっているタイプと、老化や重度の感染症で衰弱しているタイプなどがあります。また多弁で嫉妬心が強く、疑い深い面をもっています。狂ったように踊ったり、笑ったり、馬鹿げた行動をとります。落ち着きがありません。性欲が強く、公共の場で自慰したい欲求をもっています。

各種症状に付随しやすい特徴には、散瞳、神経質な笑い、手足のふるえ、痙攣、間代性痙攣などがあります。

AFFINITY

Hyoscyamusは、主に精神、脳、神経、筋肉（とくに顔面、眼など）、血液などに親和性があります。

CLINICAL APPLICATIONS

Hyoscyamusは、主に次のような症状に適用されます。

■問題行動

- ・いつも淫乱な妄想をする。
- ・性障害：性活動亢進を伴う異常性欲行動を起こします。
- ・公衆の場で裸になりたがる、人前で性器をいじくる。
- ・子供の過度の自慰
- ・恐怖や嫉妬、失恋後の神経症
- ・不適切な場所で意味なく笑う。

（上記の症状が突然出ることがあります）

- ・新しい赤ちゃんや子犬が来たことによる嫉妬からの問題行動

■一時的な精神錯乱状態（老齢の患者で、極度に疲労し、顔は青白く、疑い深く、嫉妬心があり、治療を拒むタイプに効果が出やすい）

- ・発熱や脳の外傷、各種依存症、出生時のトラウマなどからくる躁病
- ・双極性障害

- ・多動症
- ・痙攣や尿失禁を伴う例もあります。
- ・てんかん：恐怖や過度の嫉妬心に起因することがあります。発作前には、耳鳴りやめまい、眼のチラつきなどがあります。発作中には、顔色が青くなり、歯をかみしめて眼が突き出たり、失禁することがあります。
- 妄想症（誰かに見られているとか、騙された、毒を盛られたなどの被害妄想癖）
- 咳（夜の痙攣性の咳で横になると悪化する）
- しゃっくり
- 子供の不眠症

■斜視、視覚障害：高熱性疾患がてんかん発作などの後に起こります。

MODALITY

- ▶ 起き上がること（咳のとき）、運動、暖かさ、かがむことなど
- ◀ 食後、横になったとき（咳）、触れられること、月経中、真夜中過ぎ、感情の悪化（恐怖、嫉妬）、寒さなど

RELATIONS

・ Antidotes : Belladonna, Camphora

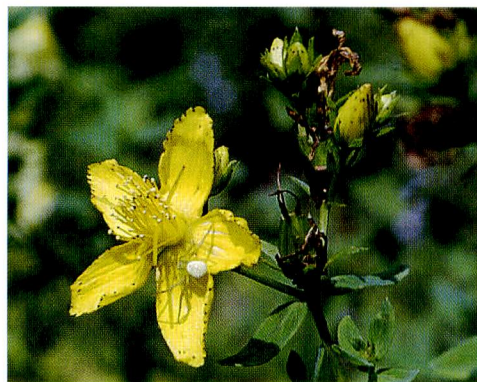
Hypericum perforatum セントジョーンズワート [神経に達する外傷]

Hypericum perforatum L.

Hypericum officinale, Hypericum virginicum, Hypericum vulgare, Fuga daemonum

BACK GROUND

Hypericum perforatumは、ヨーロッパ、アジア、北アフリカが原産で、草原や丘陵地、森などに分布するオトギリソウ科オトギリソウ属の多年草植物です。



(A)

オトギリソウ属の植物約280種のうち、60%以上のものが、その薬効について調査されています。同属の多くの植物が世界各地で、伝統医療の薬草として用いられています。漢方薬にも11種類のオトギリソウ属の植物が含まれています。280種の中でも薬効が証明され、よく用いられているものには、次のような植物があります。Hypericum perforatum, H.andrecyanum, H.calycinum, H.caprifolium, H.drum-

mondii, H.japonicum, H.scabrumなどが代表的です。

Hypericum perforatumは、高さ30~60cmくらいで、レモンの香りのする黄色い小さな花を多数つけます。一般的には、St.John's wort、日本ではセイヨウオトギリソウ、またはセントジョーンズワートと呼ばれています。葉や黄色い花には斑点があり、花弁を指でこすると赤い液体が出てくることから、洗礼者ヨハネが首を切られたとき、その血液からセントジョーンズワートが芽生えてきたという言い伝えがあります。また、聖ヨハネが異教徒として追われているときに、この花のおかげで助かったという言い伝えもあります。このような、キリスト教に関連した言い伝えはたくさん残されています。

この花の開花時期は6月下旬頃であるために、キリスト教文化圏では、聖ヨハネ（John）の6月24日の誕生日に因んで、St.Johnの草、つまりセントジョーンズワートと呼ばれるようになりました。

学名のHypericum perforatumは諸説があり、ギリシア語のhyper上に、eikon絵に由来する説は、この植物を絵の上に飾ると、悪霊を退散させることができることからきていとされています。もう1つの説は、ギリシア語のhyper上に、ereike荒地に由来し、この植物の生育環境からきていとされています。Perforatumは、小さな穴という意味があり、この植物の葉の表面の斑点の形状に由来します。この葉の斑